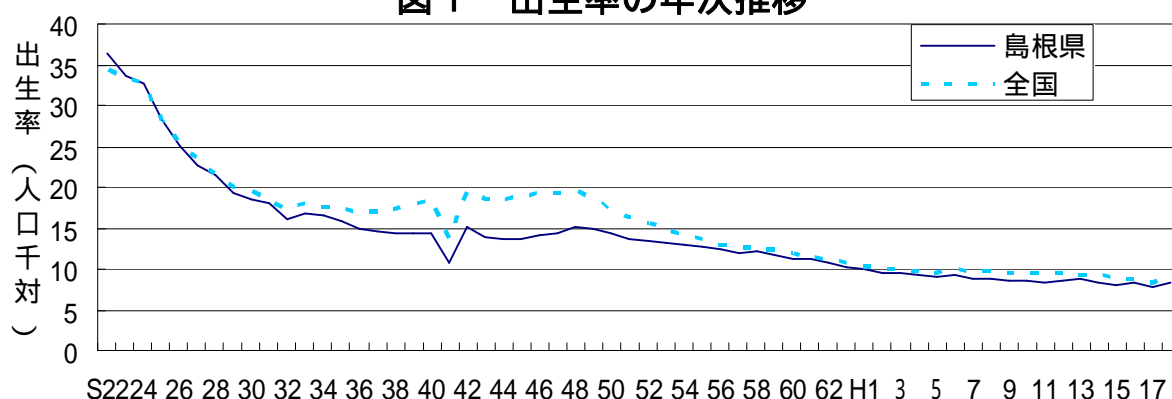


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成 18 年の出生数は 6,011 人で、前年の 5,697 人から 314 人増加し、出生率（人口千対）は 8.2 で、前年の 7.7 を 0.5 上回った。昭和 22 年～昭和 24 年（第一次ベビーブーム）の出生率は 35.0 前後と高かったが、昭和 25 年から急激に下降していった。その後一時回復するものの、昭和 41 年の「ひのえうま」前後の特殊な動きを除いて緩やかな減少傾向が続いた。昭和 46 年からの第 2 次ベビーブームでわずかに回復し、その後は減少傾向が続いたが、過去最低であった平成 17 年を上回った結果となった（図 1）。

図 1 出生率の年次推移



出生数を母の年齢(5歳階級)別にみると、20歳～24歳、25歳～29歳、30歳～34歳、35歳～39歳、40歳～44歳で前年から増加し、15歳～19歳、45歳～49歳で減少した。（表 2）

表 2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	16 年 - 15 年	17 年 - 16 年	18 年 - 17 年
総数	6,092	6,104	5,697	6,011	12	407	314
～14 歳	2	-	-	-	-	-	-
15～19	105	94	104	95	11	10	9
20～24	923	894	780	796	29	114	16
25～29	2,276	2,204	2,006	2,015	72	198	9
30～34	1,985	2,066	1,987	2,223	81	79	236
35～39	712	732	721	766	20	11	45
40～44	85	112	96	114	27	16	18
45～49	4	2	3	2	2	1	1
50 歳以上	-	-	-	-	-	-	-

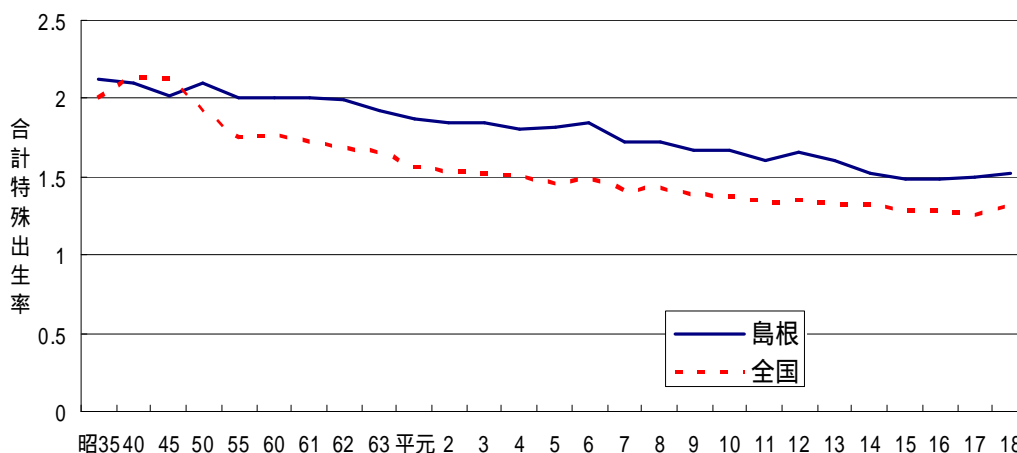
(2) 合計特殊出生率

平成 18 年の合計特殊出生率は 1.53 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県のほうが上回っており、順位は全国 3 位である。

(図 2)

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 12 年及び平成 17 年は日本人人口（国勢調査）、平成 13 年から平成 16 年及び平成 18 年は総人口（総務省推計）であるため、単純にそのまま比較することはできない。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢階級別にみると、20歳～24歳、30歳～34歳が上昇し、35歳～39歳は同じ値、25歳～29歳が下降となっている。(図3)

図 3 年齢階級別合計特殊出生率の年次推移

